

006 健康経営 取り組み事例

企業
プロフィール



あなたの未来を強くする
住友生命保険相互会社

業種 30 保険業
従業員数 44,823名(2022年度末)

01 目的

住友生命グループは「ウェルビーイングに貢献する『なくてはならない保険会社グループ』」の実現を目指している。そのためには、一人ひとりの職員が個々の能力をいきいきと最大限に発揮し、職員やその家族が心と体の健康を大切に「ウェルビーイング」であることが重要であり、健康保険組合と協力し取り組みを推進している。

02 課題・目標

健康経営で解決したい経営上の課題

	健康経営で解決したい経営上の課題	職員が個々の能力をいきいきと最大限に発揮し「ウェルビーイング」であるために、特にフィジカル面を起因としたアブセンティーズムやプレゼンティーズムの改善が課題。
	健康経営の実施により期待する効果	職員が健康に対し「意識」「行動」し、健康維持・増進活動に積極的に取り組み、2次健診対象者占率30%未満(KPI)等を達成することにより、業務パフォーマンスの改善および職員ウェルビーイングの向上を期待。

自社従業員(組織)の課題と目標

重点課題1

課題内容	健康増進型保険「住友生命「Vitality」」発売時(2018年)には「運動不足」に関する状況は大きく改善するも、その後コロナ禍の行動制限の影響等による悪化傾向もみられ、まだ十分な水準とはいえ、運動習慣改善へ向けた取り組みを更に推進していく必要がある。		
目標	運動習慣の改善(運動不足者占率の低下)		
	数値	単位	年度
取組前実績値	61.6	%	2018年度
現在の実績値	52.3	%	2022年度
目標値	前年比改善		

重点課題2

課題内容	当社の「喫煙率」の状況は、全国平均(16.7%)と比較して非常に高水準となっており、取り組み以降年々改善傾向がみられるものの、職員自身やすべてのステークホルダーの更なるウェルビーイング向上のため、喫煙率低下に向けた取り組みを更に推進していく必要がある。		
目標	喫煙者占率の低下		
	数値	単位	年度
取組前実績値	25.9	%	2018年度
現在の実績値	23.5	%	2022年度
目標値	前年比改善		

04 健康経営の成果

経営上の課題に対する健康経営の成果
各種生活習慣の改善傾向とともに、KPIである2次健診対象者占率も29.5%(2018年度)から27.2%(2022年度)と着実に改善している。これらの取り組みが、業務パフォーマンス改善や職員ウェルビーイングの向上へつながり、「ウェルビーイングに貢献する『なくてはならない保険会社グループ』」の実現へ向けて前進している。

03 施策・実績

健康経営の取り組み

施策内容(重点課題1)

具体的な実践内容1

分類	自社サービス
名称	Vitality健康プログラム
内容	健康増進への取り組みをポイント化し、獲得した累計ポイントで判定したステータスに応じて、保険料が変動し各種特典(リワード)も利用可能。
導入時期	2018年7月
評価(定量・定性)	<ul style="list-style-type: none"> ●職員の本サービス利用者増加に伴い、「運動不足者占率」の状況は導入前の61.6%から直近52.3%(2022年度)と△9.3pt改善している。 ●2023年4月に保険契約と切り離し、プログラムの一部を利用できる「Vitalityスマート」を発売し、利用者の更なる増加につながっている。

具体的な実践内容2

分類	外部サービス
名称	健康管理アプリkencom
提供元社名	DeSCヘルスケア株式会社
内容	健康データや歩数・体重等の管理、参加型の健康増進イベントの展開等を提供するアプリ。
導入時期	2017年7月
選択理由	●価格 ●機能・性能 ●使いやすさ ●実績
評価(定量・定性)	<ul style="list-style-type: none"> ●アプリを活用した社内ウォーキングイベント「みんなで歩活」を毎年2回(春・秋)実施。2023年度は延べ19,743名(春9,885名・秋9,858名)が参加。 ●個人戦だけでなくチーム対抗戦(延べ参加チーム数3,140組)も実施し、健康増進活動を通じたコミュニケーション活性化も図れている。

データ活用事例

事例名	糖尿病重症化予防事業への活用
内容	健康保険組合とのコラボヘルスの取り組みのひとつとして、糖尿病の重症化予防のために健康保険組合が主体となり、各種データ等を活用し一定基準を超えた対象者を選定し、産業医(本社診療所長)の協力のもと面談指導を実施している。
利用データ	健康保険組合の保有する健診データ、レセプトデータ
利用者(ユースケース類型)	産業保健スタッフ(ユースケース1)

取り組みにおける課題や困っていること

実施している施策の課題	禁煙等生活習慣の課題については、職種や地域、世代等による格差が大きく、それぞれに対する効果的な施策の手が打ちにくい。また投資に対する効果測定が難しい面も課題である。
今後取り組みたい施策の課題	業務パフォーマンス向上へ向けた取り組みにおいては、生活習慣やフィジカル面だけでなく、ストレスチェック、勤怠情報等のデータも含めて総合的に分析する必要があると認識している。

施策内容(重点課題2)

具体的な実践内容1

分類	自社組織
名称	禁煙週間および禁煙デー運営の実施
内容	年2回(5月・11月)の禁煙週間および毎月3回の禁煙デーを実施。全国拠点での健康管理推進委員会においても、禁煙に関する課題を共有。
導入時期	不明
評価(定量・定性)	<ul style="list-style-type: none"> ●禁煙推進を最重点取り組み事項とし、各種取り組みを通じた意識向上を図っており、喫煙率は25.9%(2018年度)から直近23.5%(2022年度)と△2.4pt改善している。

具体的な実践内容2

分類	自社組織
名称	Web社内報
内容	禁煙に取り組む職員の状況をWeb社内報へ掲載
導入時期	2023年度
評価(定量・定性)	<ul style="list-style-type: none"> ●Web社内報内の禁煙応援企画を全25回にわたり掲載。禁煙宣言を行った職員代表の近況をリアルタイムに配信し社内の禁煙意識醸成を図った。

具体的な実践内容3

分類	外部サービス
名称	健康管理アプリkencom
提供元社名	DeSCヘルスケア株式会社
内容	アプリの情報発信機能を用いて、禁煙に関する情報を毎月定期的に発信。
導入時期	2017年7月
選択理由	●価格 ●機能・性能 ●使いやすさ ●実績
評価(定量・定性)	<ul style="list-style-type: none"> ●禁煙に関する情報提供により禁煙意識向上を図っている。